

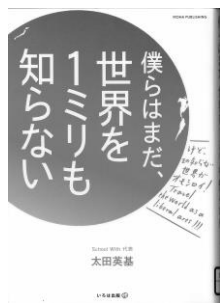
### 『覚悟の磨き方～超訳吉田松陰』

池田貴将編訳、サンクチュアリ出版、289.1 ヲ）  
誰よりも熱く、誰よりも冷静だった幕末の天才思想家・吉田松陰から日本の若者へ。どんな逆境をも乗り越える力を身につけて「本気で生きよ」と説く松陰の言葉から、これからの人生を歩むヒントを得てみましょう。



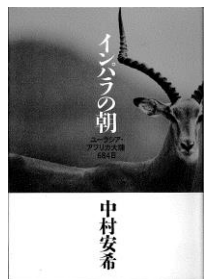
### 『僕らはまだ、世界を1ミリも知らない』

（太田英基、いろは出版、290.9 オ）  
「まだ1ミリも知らない世界には、僕らをソクソクさせる可能性があふれている。」20代という貴重な2年間を、世界一周に投じた一人の旅人の物語。これから海外で活躍したいと夢を抱いている人はもちろん、いつか海外旅行に行ってみたいと考えている人にもおすすめです。



### 『インパラの朝 ユーラシア・アフリカ大陸684日』

（中村安希、集英社、292.09 ナ）  
観光もグルメもショッピングもない、女ひとりバックパッカーの旅。圧倒的な貧しさ、それを忘れさせる愛とやさしさ…。エピソードのひとつひとつがユーモアに満ち、まるでドキュメンタリー映画を観ているようです。



### 『大人はどうして働くの？』

（宮本恵理子編、日経 BP 社、366 ミ）  
「どうして働くのか」という質問に、7人の著名人が答えます。働くということ、そして生きるということの本質について、分かりやすい言葉で語られています。すでに働いている人が読んで「明日もがんばろう!」と思えるはず。



### 『大切にしたい、にっぽんの暮らし』

（さとうひろみ、サンクチュアリ出版、386.1 サ）  
日本には四季があり、季節ならではの行事や風習があります。大切にしたい季節の行事の意味や由来、旬の食材を楽しめるレシピなど、分かりやすく紹介した和のガイドブック。日々の生活をより豊かに、輝いたものにするための1冊です。



### 『孤独と不安のレッスン』

（鴻上尚史、大和書房、914.6 コ）  
日本は「同調圧力」の強い国だと言われます。外国人が「神」を敬うように「世間」の判断を重んじる日本。一体「世間」とは何なのか。なんとなく今に息苦しさを感じている人に、息苦しさを理由や解決のヒントを教えてください。



### 『思考の整理学』

（外山滋比古、筑摩書房、B141.5 ト）  
ものの考え方、そして考えたことの整理の仕方について、分かりやすい言葉で著者が語ります。「考えるのは面倒なことと思っている人が多いが、見方によってはこれほど、ぜいたくな楽しみはないのかもしれない。（あとがきより）」考えることの楽しさを教えてくれる1冊です。



### 『名作うしろ読み』

（齋藤美奈子、中央公論社、908.8 サ）  
あまり知られていない名作文学のラスト一文から、作品読み解く文学案内。古今東西の名作132冊が紹介されています。1冊につき1見開きで紹介されているので、本を読むのが苦手な人にも読みやすい1冊です！



### 『しあわせのねだん』

（角田光代、晶文社、914.6 カ）  
屋めし977円、靴59,000円…等々、日常で使われゆくお金と、それにまつわるひたむきな思いをつづったエッセイ。成人するとお金を使う頻度が増えます。このエッセイを読んで、お金を使うことにより見えてくる自分の幸福の形を模索して欲しいです。



### 『社会のマナーとしくみがわかる』

（岩下宣子監修、講談社、336.47 シ）  
学校では学べなかった「社会のルールとしくみ」がこの1冊に。スムーズに仕事を行うには欠かせない情報が盛りだくさんです。困ったときにすぐチェックできるように、手元に置いておきたい本です。



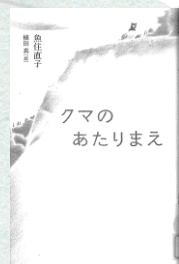
### 『戸村飯店青春100連発』

（瀬尾まいこ、理論社、913.6 セ）  
大坂の超庶民的中華料理店、戸村飯店の2人の息子。要領も見た目もいい兄ヘイスケと、お調子者で単純な性格の弟コウスケ。家族や兄弟でも、折り合いが悪かったり波長が違ったり。大阪と東京で兄弟が自分を見つめなおす、笑って泣ける、あたたかい青春物語。



### 『クマのあたりまえ』

（魚住直子、ポプラ社、J913 ウ）  
生き物が登場する7つの物語。自分はベッピンで他とは違う、一羽だけ残されても平気だと思っていたチドリ。ある一羽と出会って、それは飛ぶことは怖い自分への言い訳だったことに気づく。新たな一歩を踏み出したいときにも、固まった気持ちをほぐしたいときにもおすすめ。



### 『カモメに飛ぶことを教えた猫』

（ルイス・セペルベタ、白水社、963 セ）  
カモメのケンガーは、最後の力で産んだ卵を港の黒猫ゾルバにたくし、3つの約束をする。ゾルバと仲間の猫たちは、卵をかえし、ひなに飛ぶことを教えようと奮闘する。誰かのために仲間と協力する優しさと、未知のことに挑戦する勇気を与えてくれる物語。



### 『モモ』

（ミヒャエル・エンデ、岩波書店、943 エ）  
時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた少女モモの不思議な物語。時間に追われ、本当の豊かさを忘れていませんか？本当に大切なものは何なのか、気付かされる物語です。



### 『こんとあき』

（林明子、福音館書店、Eコ）  
無償の愛がテーマの本。ぬいぐるみのこんが、ひたすらに女の子あきにつくします。ただただその姿が愛おしいです。人は愛を通して成長しますが、大人になれば愛を与えていく比重が増します。無償の愛は究極の愛の形だということをこの本は教えてくれます。



### 『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド 上・下』

（村上春樹、新潮社、913.6 ム）  
高い壁に囲まれた街で、一角獣の頭骨から夢を読んで暮らす「僕」の物語[世界の終り]。暗号を取り扱う「記号士」の「私」が、自らに仕掛けられた装置の謎を探し求める物語 [ハードボイルド・ワンダーランド]。同時進行する2つの世界は次第に重なり合い…。村上春樹のふしぎな世界を味わえる作品です。



### 『坊っちゃん』

（夏目漱石、新潮社、B913.6 ナ）  
「親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。」この一文で始まる、あまりにも有名な夏目漱石の小説。正義感あふれる坊っちゃんは、四国の中学校に英語教師として赴任し、大人たちを相手に大騒動を繰り広げます。日本の名作を、ぜひ読んでみてください。



### 『走れ！移動図書館 本でよりそう』

（鎌倉幸子、筑摩書房、O15.5 カ）  
被災者の心の回復には本が必要だ！東日本大震災直後に立ち上げられた「本」を届ける移動図書館プロジェクト。その誕生から現在までを綴った本です。どんなときでも心の渇きを癒す「本の子カラ」を感じられる1冊です。



### 『詩集 本気をだせばなんでもやれる』

（須永博士、夢出版、911.56 ス）  
須永氏は小国町を拠点とし、現在も各地を放浪、個展と講演会を開催しながらたくさんの詩を残されています。「あなた、人生頑張ってください。」一素朴なことばの中にみる強さ、勇気、愛と希望を感じてください。



### 『海からの風』

（葉祥明、晶文社、726.6 ヲ）  
「人生には君が欲していることではなくて、君に必要なことが起きるんだ!」熊本出身の絵本作家・葉祥明氏からのメッセージ。人生の岐路に立ったとき、この本が側でやさしく応援してくれたら、きっと良い方向に向かうはず。



私たちは、人生を変えるほどの、または探していた答えが見つかる本にどれだけ出会えるでしょう。それも人生の宝探しの一つかも知れません。